



ある年の暮れ、神さまは「新年のあいさつにきた順に1年ずつ大将にしてやる」と動物たちにお触れを出しました。歩みのおそい牛は暗いうちから出発したのに、到着寸前で背中に乗っていたネズミに1番をさらわれてしまいます。それでも牛はネズミをとがめません。できるだけの備えをしたのだから、最高の結果でなくてもよしとしよう。

牛は昔より農作業など労働力としてなじみの深い動物でした。寡黙で勤勉によく働く姿が「誠実さ」の象徴となったようです。わたしたちも準備と計画性、そして誠実さを大切にしたいものです。いつになく先が見通せない今だからこそ、どっしりと構える姿にあやかり、牛のように一步一步を着実に刻み、いつかたどり着ける明るい日があることを信じましょう。



手元のスクラップブックに1編の詩があります。短いことばの世界に励まされ、うなずき、ちょっと頬がゆるみます。

持ってくるもののらんに がんばるきもち とうたろうは書いた 支援学級の四年生
先生からは ステキです おべんとうも わすれないでね と書かれていた

宿題も大切ですが、学校へ持っていくもっと大切なものがあることをこの詩は教えてくれます。それは「がんばるきもち」。「とうたろう」が前を向いて歩く姿が行間から浮かんできます。先生の返事もいいですね。コロナ禍のニュースが多い昨今に、さわやかな風を感じます。

新学期のはじめはだれでも不安があります。その不安に押しつぶされないよう、きょうは学校へ向かうカバンの底に「がんばるきもち」をしのばせた人もきっとたくさんいたことでしょう。だから、この詩に出てくる先生のように、わたしたちもみなさんを応援したいと思っています。

分散参拝で、年の瀬に近くの神社で手を合わせました。長い列にせかさされず、ゆったりと参ったあと、目に入った絵馬に「看護師になりたい」の文字。新しいからつい最近のものでしょうか。感染症対策で激務と知ったうえで希望している人の、きれいな文字に固い決意を見た気がしました。おそらくあなたも「がんばるきもち」と連絡帳に書いてくれることでしょう。 2021年をFIGHT!